

●人との関わり

●家族との関わり：
●友人（同世代の人）との関わり：
●周りの大人（先生や支援者など）との関わり：
●知らない人との関わり：
●社会的常識・ルールの理解：

●コミュニケーション

◇主なコミュニケーションの方法（○をつける）	
実物 絵 写真 文字 言葉 ジェスチャー その他（ ）	
●本人から相手に伝えるとき	●相手から本人へ伝えるとき
《要求》	《要求》
《注意喚起》	《注意喚起（気づいてほしいとき）》
《拒否の仕方》	《してはいけないことの伝え方》
《その他（特徴、支援のてがかり）》	《その他（特徴、支援のてがかり）》

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

「●人とかかわり」では、対人面の様子を観察、評価します。以下のような視点を参考にしてください。

<感情表現>

- 感情を表しますか(笑う、泣く、叫ぶなど)。
- 自分の気持ちを適切に表現していますか(嫌な時にも笑う、いつも無表情など、気持ちを表現する方法が独特なことがあります)。
- 特定の人を好む、好意を示す(笑う、身体接触するなど)あるいは、避けることがあります。
- 身近な家族が見えないときに、探しますか。
- 身近な人の好きなことや嫌いなこと、機嫌や感情がわかりますか。

<模倣>

- 周りの人の行動を真似ますか。

<友達との関係>

- 子どもが遊んでいる様子に興味を示したり、自分から近づいていき働きかけますか。
- 友人の顔や名前を認識していますか。 ●仲の良い友だちがいたり、好意を示すことがありますか。
- 相手が困っている時に、手を差し出したり、「大丈夫？」と気遣いを示しますか。
- 相手に良いことがあった時に、「よかったね」などの肯定的な言葉がかけられますか。

「●コミュニケーション」では、「本人から相手に伝えるとき」(表出性のコミュニケーション)と、「相手から本人へ伝えるとき」(受容性のコミュニケーション)の評価をします。

自閉症の方の中には、文字や文章が上手に読めたり、日常的な会話に問題がないように見えても、あまり理解ができていない等のアンバランスさを持つ場合があります。

自分の気持ちを伝えられることや、相手の話がわかることは、問題行動を防止する上でも大変重要な因子となります。フォーマルな評価を参考にすることが出来ない場合も、所属機関の中でできる評価を行い、「分かる」、「伝わる」というやりとりの成功経験を重ねられるように支援していくことが大切です。

<評価の際の視点>

●本人から相手に伝えるとき

<要求・拒否の仕方>どのような方法で相手に伝えるかを観察します。要求がうまく伝えられない場合も、選択肢を示すと、欲しいものやしたい活動を選ぶことがあります。

<注意喚起>相手の前まで行く、相手の名前を呼ぶ(○○さん、先生など)、肩を叩く、ねえねえと言うなど、相手の注意をひくことができているかを確認します。独り言のように、相手に伝わりにくい方法で伝えている場合は、注意喚起がうまく出来ていないといえます。

<その他>独り言が多い、独特のイントネーション、声のボリューム調整が出来にくい、説明はできるが自分の気持ちが言えない、説明する際に時系列に話したり、誰が誰にといった説明ができないなどの特徴があれば記載します。

言葉がない、叱嗟の時に肝心なことを言えないなどにより、カード等を用いている場合なども記載します。

●相手から本人に伝えるとき

<要求>指示やして欲しいことがあるときに、どのように伝えればよいか記載します。言葉でわかるのか、写真や、絵、具体物が良いのかは、実際に生活場面で評価することができます。評価の際は視線やジェスチャーなどのヒントを与えずに、言葉だけで伝わるかなどを実際に試してみると評価が可能です。

<注意喚起>名前を呼べば聞くことが出来るか、強く注意を引き付けなければならないのかなどを観察します。

<してはいけないことの伝え方>「だめ」などの否定的なことばだと受け入れにくい場合や、ことばではなくジェスチャーの方が良い場合などがあります。本人が理解できない場合、理解できても切り替えられない場合は、その旨を記載します。